

公立幼稚園の学級編成等における最低基準の策定について

現 状

最低基準の定めはなく、原則1人でも希望があれば幼児教育を実施することとしている。

一方で、1学級あたり園児数の上限については、公立幼稚園運営基準により以下のとおりとなっている。

3歳（年少）児	1学級25人まで （ただし、20人を超えた場合は学級編成において配慮）
4・5歳（年中・年長）児	1学級35人まで （ただし、30人を超えた場合は学級編成において配慮）

運営基準により、1学年の園児数から2学級以上の編成、異なる学年の園児を複式学級として1学級とする等の編成を行っている。

【令和6年度】

5月1日時点

	年少児			年中児			年長児			計			学級数
	男児	女児		男児	女児		男児	女児		男児	女児		
飯田幼	1	1	2	4	5	9	2	5	7	7	11	18	2
園田幼	4	6	10	4	5	9	12	9	21	20	20	40	4
森幼	3	4	7	3	11	14	16	9	25	22	24	46	4
計	8	11	19	11	21	32	30	23	53	49	55	104	10

飯田幼稚園 年少・年中（複式）1学級（年少2人・年中9人 計11人）

園田幼稚園 年長2学級（年長①11人・年長②10人 計21人）

森幼稚園 年長2学級（年長①13人・年長②12人 計25人）

* 1学級の最多園児数は森幼稚園年中児の14人、最少園児数は飯田幼稚園年長児及び森幼稚園年少児の7人となっている。

* 1学級あたりの平均児童数は10.4人。県西部地域の1学級あたりの平均児童数は15.9人となっており、西部地域の中でも最少となっている。（令和6年度学校基本調査速報値より）

【令和5年度】

5月1日時点

	年少児			年中児			年長児			計			学級数
	男児	女児		男児	女児		男児	女児		男児	女児		
飯田幼	4	5	9	2	5	7	4	4	8	10	14	24	3
園田幼	2	3	5	8	9	17	7	8	15	17	20	37	3
一宮幼	2	2	4	2	0	2	3	2	5	7	4	11	2
森幼	3	10	13	13	9	22	11	9	20	27	28	55	3
天方幼	0	1	1	1	0	1	1	2	3	2	3	5	1
計	11	21	32	26	23	49	26	25	51	63	69	132	12

一宮幼稚園 年中・年長（複式）1学級（年中2人・年長5人 計7人）

天方幼稚園 年少・年中・年長（複々式）1学級（年少1人・年中1人・年長3人 計5人）

* 1学級の最多園児数は森幼稚園年中児の22人、最少園児数は天方幼稚園年少・中・長児の複々式学級で5人となっている。

* 1学級あたりの平均児童数は11.0人。県西部地域の1学級あたりの平均児童数は16.7人となっており、西部地域の中でも最少となっている。（令和5年度学校基本調査より）

令和3年度以降、1学級の児童数が学級編成の上限数を越えることなく、また園児数20人以上の学級も限られた幼稚園のみとなっている。また、1学級あたりの園児数が10人～程度の学級が多く、上限の園児数よりも余裕を持った学級編成となっていることから、現状でも、ひとりひとりの児童を丁寧に見ることができ、「個に応じた支援」も十分に可能と思われる。

方針

最低基準の策定にあたっては以下の方針に基づき検討することとする。

○幼児の発達状況に応じた、丁寧かつきめ細かな教育・保育を引き続き提供するとともに、一定規模の集団を形成することにより、相互に影響しあい、ひとりひとりが発達に沿った必要な経験が得られる環境を整えること。

○極端に少ない園児数での学級編成になることは、幼児期の発達にとって良い面ばかりでないことを踏まえ、集団としてグループ活動が行える人数を確保すること。

○異年齢保育の特長を理解しつつも、複式学級等は望ましくないことから原則として学年単独で学級編成できる規模とすること。

最低基準の策定

森町公立幼稚園の適正な集団規模として

「1学級○人以上、かつ幼稚園全体で○人以上」を最低基準とし、基準を下回る場合においては今後、休園を検討することとします。